

# あえて英語公用語論

船橋洋一



文藝春秋

## あえて英語公用語論

船橋洋一

文春新書  
122



9784166601226



1920282007100

ISBN4-16-660122-9

C0282 ¥710E

定価(本体710円+税)



船橋洋一(ふなはし しょういち)  
朝日新聞ラモスタ。日本@世界。船橋洋一の世界  
ブリーフィングを連載。朝日新聞北京特派員ワシ  
ントン特派員。アメリカ総局長を歴任。この間、ハーバ  
ード大学、ペンシルベニア大学、米国際経済研究所客員研究員  
著書に「内部」「通貨烈烈」「アジア太平洋フレンジー」  
「同盟漂流」他。一九四四年、北京生まれ、東京大学卒。

### 第3章 バイリンガル

りである。  
「通常のクラスの生徒と比べて、まったく劣っていません。むしろ、いくらいです」とポスト  
ウィック氏は言った。  
「生徒たちは、日本で日本語を話す環境に暮らしていますから、英語の理解力を日本語の理解力  
に移し替えることがやりやすい。英語にここまで浸されると、英語で考える時の視点をつねに意  
識することになり、自分を客観的に見つめようとするようになる。そうしたことでかえって日本  
人としてのアイデンティティを保とうと努力するのです」  
「それから、生徒も先生も、イマージョンのせいで母語がおろそかになってはいけないと、一生  
懸命努力するということもあるかもしれませんね」とポストウィック氏は付け加えた。  
この点については、筑波大学心理学研究科の研究者たちが、加藤学園のイマージョンクラスの  
効果を分析した研究成果を発表している。  
その結果、「英語イマージョンクラスの生徒たちは日本の文化に対する態度をむしろ強化して  
いると見られる」と結論づけている。  
「日本人としての文化的アイデンティティは、英語イマージョン教育でも何ら損なわれていない。  
イマージョンの経験は、他の文化に対する積極的な態度を促すだけでなく、自らの文化に対する  
アイデンティティの感覚をも高める方向に働いている可能性がある」(サイモン・ダウンズ『英語  
イマージョンプログラムにおける日本の生徒の文化的アイデンティティの感覚』)  
「日本人の英語の先生は、たじたじになってしまい、イマージョンのクラスに行けなくなってい  
まう」と言って、加藤学園長は笑う。そして、付け加えた。  
「イマージョンのクラスの子供たち、私の英語の訛を面白がって、真似るんですよ」  
「かつて、父兄と一緒に、米国のフェアファックスのスペイン語のイマージョン校を参観に行っ  
た時、その先生が、カーター元大統領がやってきた時の話をしてくれました。カーターは転が  
ってきたボールを生徒に投げて返した時、スペイン語で言った。その発音がおかしいというので、  
子供たちはみんなで笑った」

加藤学園は、現在、英語に中国語を加えた日英中三カ国語イマージョンクラスを実験的に始め  
ることを検討している。生徒数は五、六人に絞る予定だ。

「英語の次に中国語を選んだのは、親御さんの中にそれを希望する声が出てきたからです。中国  
が大きな存在として立ち現れてきましたから」と加藤氏は説明した。

加藤氏は、イマージョンクラスを始める時、教室が大混乱になるのではないかと、日本語がダメ  
になるのではないかと心配した。しかし、そのいずれも杞憂に終わった。

もう一つ、密かに心配していたことがある。  
「イマージョンクラスの子供たちが、英語での読書はどうしても年齢から一、二年くらい下のもの